

## 〔第3号議案〕2012年度活動計画

はじめに

昨年3月11日に起きた東北関東大地震は、地震津波による被害とその直後に発生した福島第一原発の放射能漏れ事故により、私たちの生活を一変させる事態に至りました。私たちTウオッチの活動も地震による被害からの復興に、有害化学物質による二次被害を無くすという観点で活動を進めていかなければいけないと思います。

そのために、昨年度から始まった東日本大震災の復興に向けた二つの取り組みの継続を軸に、活動していきたいと思います。また、本年4月にTウオッチは設立10周年を迎えましたが、PRTRデータも10年分蓄積され、日本の環境が化学物質の排出という面でどのように変わってきているのか、自分たちの活動の総括も含め、検討する年度にしたいと思います。

また、国際的にはICCM3（第3回国際化学物質会議）が開催されますので、日本の市民セクターの代表として、参加していきたいと思います。

今年度の活動を重点課題と一般課題に分け提案いたします。

### 1. 重点課題

#### ① 化学物質政策基本法の制定を目指します

東日本大震災の復興復旧対応で、国会では化学物質政策基本法を制定する動きが止まっている状態です。しかし、「2020年目標」の達成のためには、基本法の制定は重要だと考えます。Tウオッチとしては、ケミネットの参加団体とともに、市民にとって役立つ化学物質政策基本法が制定されるよう、民主党だけでなく、野党も含めた国会議員に対する働きかけを強化していきます。3年前に化学物質政策基本法を求める署名活動の際に呼びかけた「2020年目標の達成のための化学物質管理に関する8つの基本原則」に基づいた基本法が制定されるよう、活動を継続、強化していきます。

#### ② PRTRに関する市民向け情報提供を継続します

日本におけるPRTR制度は、2010年4月の政省令の改正に伴い、届出対象物質が増加し、政令番号が変更されました。データベース等でどのように対応するのか、方針を検討し、エコケミストリー研究会と対応策をまとめることができました。

リスク評価も取り入れたウェブサイトの作成が昨年度の重点課題でしたが、作業が不十分なままに終わり、この数年間にわたり、エコケミストリー研究会のウェブサイトとのリンクがうまくいってなかったことなどが、いまだ改善されていません。今年度はこの間の不十分だった点を整理し、Tウオッチのウェブサイトを充実させる作業に取り組みます。また、エコケミストリー研究会とのリンクも復活させ、より市民にとってPRTRデータを活用できるような情報提供にしていきます。

昨年度、英語版の改定を行いました。今年度はより一層Tウオッチのウェブサイトの充実をめざし、改良作業を行っていきます。

#### ③ S A I C M国内実施計画の策定に市民の声を反映させるように取り組みます。

環境と化学物質政策対話に参加し、市民の意見を反映させるように働きかけます。I C C

M3（第3回国際化学物質会議）にTウォッチから参加者を派遣します。

④ 東日本大震災の復興に向けた取り組みを強化します

有害化学物質による土壌汚染調査については、汚染が確認された地域の追加調査を実施していきます。また、PRTR届出データを精査し、津波で被災した工場からの化学物質の流出実態を把握する作業を行い、PRTR制度の災害対応について改善すべき点をまとめ、提言していきます。

放射能汚染調査については、依頼測定だけでなく、日本の有機農業をはじめとする食と農の安全をめざす取り組みを支えるという観点から、福島、栃木、埼玉、神奈川などで、有機農業を継続しながら放射能汚染を避ける取り組みに努力をしている生産者と協同で、定点測定調査活動に取り組みます。

また、各地で立ち上がっている市民による放射能測定活動を支援します。セシウムの校正用線源を用意し、有償で貸し出し、市民の測定活動のスキルアップに協力していきます。必要に応じて、学習会を開催し、情報共有を進めていきます。

2. 一般課題

⑤ 普及啓発の取り組み

PRTRデータを市民が有効活用するという方法を普及していく活動には引き続き取り組んでいきます。事業者、地方自治体、市民団体とのリスクコミュニケーションの場である地域セミナーについては、数か所の地域で開催していきます。

⑥ チェックリストの普及

4年前から取り組んできた事業者の化学物質に関する自主管理を評価するチェックリストについては、より多くの事業者に使用してもらえるよう研究を継続し、普及する活動に取り組んでいきます。

⑦ ウェブサイトの運営、データベースの更新

Tウォッチのウェブサイトの運営、データベースの更新作業に関して、協力者を増やし、迅速に対応できる人材を確保していきます。

⑧ 自治体向けアンケートとヒアリング調査

本年度地球環境基金の助成を受けて、PRTR集計公表データの10年分の経年変化を検討し、有害化学物質の環境負荷がどのように低減しているか、PRTRデータの活用、リスクコミュニケーション事業の取り組み状況、緊急時対応に関して、届出窓口設置地方自治体にアンケートとヒアリング調査を実施します。調査結果をまとめ、今後どのようにPRTRデータを活用していけばよいか提言の形でまとめます。

⑨ ウェブサイトの改定

TウォッチのPRTRおよび温室効果ガス排出量検索データベースを更新するとともに、昨年度から取り組んでいるウェブサイトの改定作業を継続し、ウェブサイトの英語化を完成させる作業を引き続き実施します。

3. 財源の確保について

従来から指摘されてきたTウォッチの財源基盤の確立については、三井物産環境基金に指摘さ

れた事項も踏まえて、放射能測定活動を収益事業と位置付け、継続した事業財源となるように維持していきます。また、測定活動を継続するため、必要な人材を確保していきます。あわせて、事務局体制の充実に向けた人材確保をめざします。

さらに、本年度は環境省等からの委託事業の受託に対するアプローチも強め、Tウォッチならではの調査事業の引き受けなど、活動の拡がり、そのための収入確保をめざします。